

サルモネラ菌 に対する

枯草菌・酪酸菌・マンノビオース のはたらき

枯草菌*

(直接的なはたらき)

- ・増殖力が強いため、サルモネラ菌が利用する栄養分を奪う

▶ 増殖抑制

- ・抗菌物質 (イツリン A) 界面活性物質 (サーファクテン) を作る

▶ 死滅

(間接的なはたらき)

- ・善玉菌の増殖を助ける

酪酸菌

(直接的なはたらき)

- ・酪酸を作る
腸管粘膜の増殖を促進
粘液分泌を促し粘膜への細菌付着を阻止

▶ 増殖抑制

(間接的なはたらき)

- ・善玉菌の増殖を助ける

腸内細菌叢を正常化

- ・善玉菌 (乳酸菌) がつくる乳酸
- ・腸管免疫が活性化し、抗体 (IgA) が増加

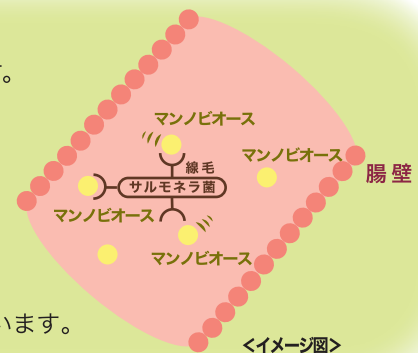
▼
増殖抑制
▲

マンノビオース

サルモネラ菌は線毛により腸粘膜のレセプターに付着し、細胞内寄生して増殖します。

腸内のサルモネラ菌の線毛にあらかじめ付着し、サルモネラ菌が腸粘膜に付着できないようにして体外へ排出

- ▶ マンノビオースはオリゴ糖の一つです。
腸内で長時間 (24 時間以内) 留まることがわかっています。



* 枯草菌は酸素がないと活動できないため、嫌気度の高い腸管内では活動できないと考えられがちですが、枯草菌は嫌気的な状況では硝酸呼吸 (硝酸や亜硝酸から酸素を奪い呼吸に利用する) により活動できます。

弊社の枯草菌は酪酸菌 (偏性嫌気性菌=酸素があると増殖等ができない) が増殖するような嫌気度においても増殖することが確かめられています。



畜産と共に 20 年、その感謝を未来への挑戦に。
Not to thank you But to be obliged
バイオバンク株式会社

20221101